

報告

第8回韓国リハビリテーション福祉工学会定期学術大会（韓国・仁川）

横浜市総合リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部 研究開発課 上野 忠浩

1. はじめに

2014年11月6日から8日の日程で、韓国、仁川広域市富川区にある「高麗ホテル」と「韓国リハビリテーション工学研究センター」を会場にして、第8回韓国リハビリテーション福祉工学会定期学術大会が開催された。筆者を含め、日本から3名の演者が国際セッションにて発表したの、その様子を報告する。

2. 定期学術大会概要

本会議のテーマは「創造経済とリハビリテーション補助機器産業」である。韓国でもリハビリテーションに対する需要は増加しており、補助機器分野が経済的に発展できるよう、機器開発を含め、さまざまな研究を促進したいという希望を含め、本大会が開催されており、活発な議論が繰り広げられていた。

3. 会場の様子

会期は3日間あり、1日目の会場は、「高麗ホテル」にて、「新しい東アジアのリハ工学団体連合」を結成するための国際会議が開かれ、筆者と国立リハセンター中村氏がオブザーバーとして参加した。2日目から、会場を「韓国リハビリテーション工学研究センター」に移し、3つの研修室に分かれて演題発表が行われた。特に2日目の午後には国際セッションがあり、6演題中、筆者も含め3演題が日本からの発表であった。3日目はポスターセッションと一般演題が午前中開催され、正午頃閉会した。

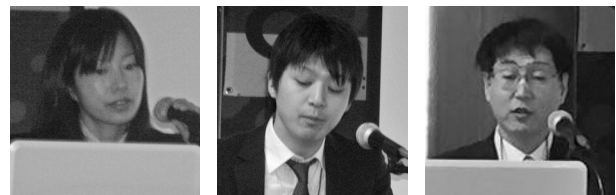
4. 発表演題

以下の3演題が日本から発表された。

“Assistive Technology Design Workshop Based on The Participatory and Empowerment approach”
国立障害者リハビリテーションセンター 中村美緒氏

“Validity of a System to Measure Lower Extremity Function”
藤田保健衛生大学 山崎一徳氏

“A development of the interface to operate Smartphones for quadriplegic people (The 3rd)”
横浜市総合リハビリテーションセンター 上野忠浩



中村美緒氏 山崎一徳氏 筆者

図1 日本からの発表者



図2 国際会議主席者

5. おわりに

特別講演の中でアメリカ退役軍人医療センターのリハビリテーションエンジニア、ベン・サラティン氏が3Dプリンタを利用した支援機器の製作実践の報告があり興味深かった。iPad用のキーガードやマウススティックホルダーなど、形状が複雑な製品も、設計するだけで、いくらでも複製が可能な点は、有益だと感じた。

RESKOはRESJAと協定を結び、学会の参加費免除の特典があり、筆者は7回連続で参加してきた。今後、RESJA会員皆さんの継続参加を期待しています。

横浜市総合リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部 研究開発課
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1770